プロジェクトマネジメントを学ぶゲームの開発と運用実験

プロジェクトマネジメントコース　矢吹研究室　0942083　Htet Myet Mun Win

1．背景

ゲームの考え方やデザイン・メカニクスなどの要素をゲーム以外の社会的な活動やサービスなどに利用することを表す「ゲーミフィケーション」が注目されている．その成功事例には以下のようなものがある．

* MyBarackObama.com： 選挙活動
* Badgeville：ビジネスモデル

このようにゲーミフィケーションは多岐に渡って利用されており，プロジェクトマネジメント（以下PM）もゲーミフィケーションによってより良くなることが期待できる．

2．目的

本研究ではPMにゲーミフィケーションの概念を導入することを試みる．具体的な方法としては，学生などPMをあまり知らない人を対象としたPMの学習を，ゲーミフィケーションを利用して行えるようにする方法を提案する．これによってPMについての理解を深めることが期待できる．

3．手法

1. PMを学習するゲームを提案し，細かな仕様をPMの要素と関連させて制作する．
2. (1)を複数回運用し，類似プロジェクトの類推見積もりの制度上昇と実コストの低減に効果があるか検証する．

4．結果

　PMの学習をするための方法は座学だけではなく，実際にプロジェクトを行う形式もあり，インターネット上ではプロジェクトをシミュレーションするものが存在していた．

また，ゲーミフィケーションやシリアスゲームの実用例から，目標を可視化し，世界観を作ることによってユーザに受け入れ易くさせ，反復効果を狙い学習効果を高めるのが良いという結果が得られた．

　それらのことから，魔王に支配された世界を救うために，規定のターン内に支配下の都市を解放していき，魔王を倒すというプロジェクトを行うゲームを制作した．このゲームはゲームマスターとプレイヤーが1人ずつ，トランプとサイコロとメモ用紙があれば行うことができる．ゲームの流れとしてはトランプの数字札が3枚配られ，それをメンバとして，能力を強化したり，人員を追加したりして各都市を解放していく．道中，メンバが怪我をしたり，敵が強化されたりするトラブルが発生する．また，敵との戦闘で都市に損害が発生する仕組みを作り，1都市で一定の損害が出ると修復を行わなければ都市解放ができない仕組みを作った．これらを数字としてまとめ，定期的に教えることにより，意思決定をさせる．

　PMの要素として，統合マネジメントは全体の管理をするという点，スコープマネジメントは全体の都市数をタスクとして見積もるという点，タイムマネジメント・コストマネジメントは，目標を設定し，それをEVMで監視することによって目標を達成するという点，品質マネジメントも同様に目標を設定し，都市の損害による品質の低下をメンバや修復行動で対処するという点，人的資源マネジメントは，最初に渡されるメンバを訓練し能力を強化するか，人員追加などの意思決定を行い管理していくという点，コミュニケーションマネジメントは，プロジェクト内で得られた情報をどう活用していくか考えて整理していく点，リスクマネジメントは，起こりうるリスクを想定し，対策したり，許容をするという点があげられる．

　実際に行ったところ，被験者1は見積もりの値に関しては1回目が40,000円で2回目が60,000円と2回目が多いのに対し，実コストに関しては1回目が70,300円で2回目が37,100円と，2回目の方が少ないという結果となった．被験者2は見積もりの値に関しては1回目が50,000円で2回目が40,000円と2回目が少なく，実コストに関しても1回目が41,000円で2回目が36,400円と，こちらも2回目の方が少ないという結果となった．そして，統計的に正しいか検証するために本研究により類似プロジェクトの類推見積もりの精度上昇と実コストの低減という結果が得られない，つまり，1回目，2回目の平均は等しいという帰無仮説を提示しt検定を行ったが，有意差がないという結果となり，帰無仮設を棄却できなかった．

5．結論

　本研究は，PMを学ぶゲームにより，類似プロジェクトの類推見積もりの精度上昇と実コストの低減を期待したものである．

　そしてこの結果は，本研究の有効性を示唆するものではあるが，統計的検定によって有意と言える段階ではないという結論に至った．この問題は，被験者を増やすことで解決することが期待できる．

6．参考文献

[1] 井上明人. ゲーミフィケーション ＜ゲーム＞はビジネスを変える. 第3版, NHK出版, 2012年4月.